

昭和村松山地区調査報告書

獨協大学大竹ゼミ 昭和村班

<目次>

1. はじめに
2. 福島県昭和村の位置と概要
3. 松山地区の現状
 - 3.1 松山地区の人口
 - 3.2 資源
4. 松山地区の課題
 - 4.1 高齢化及び人口減少
 - 4.2 高齢化による諸課題
5. 今年度の取り組み
 - 5.1 第一回現地調査
 - 5.2 「ふささら祭り」のお手伝い
 - 5.3 第二回現地調査
 - 5.4 オリジナルマップの作成
6. これからの活動
 - 6.1 松山の魅力を発信
 - 6.2 オリジナルマップの活用
 - 6.3 ツアーの開催
7. 終わりに

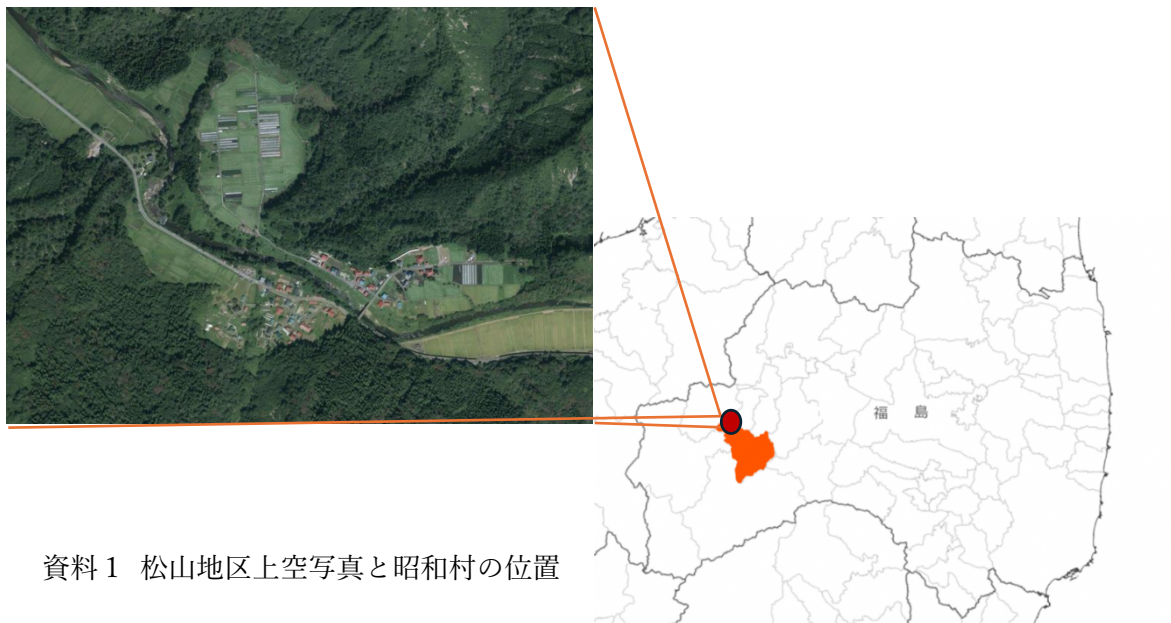
1、はじめに

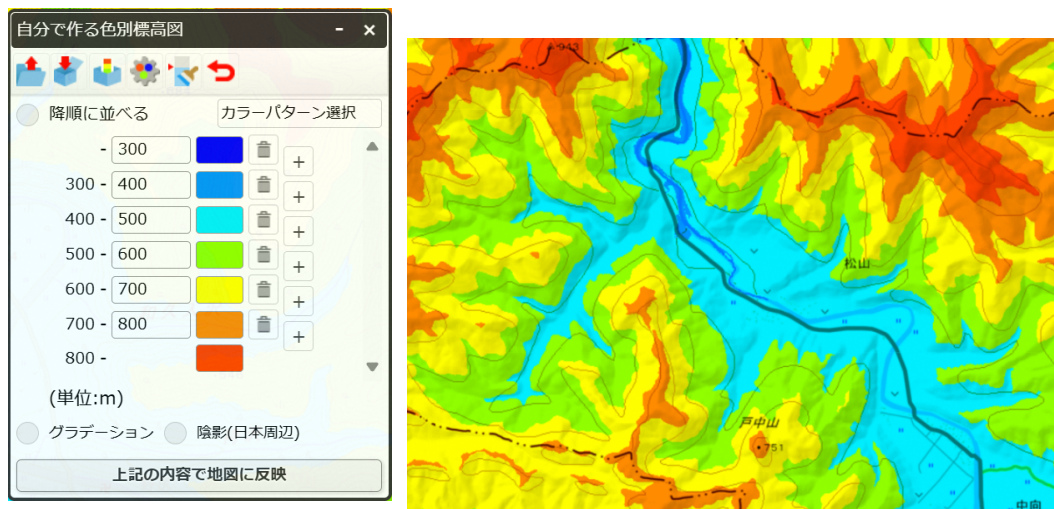
昭和村松山地区を担当する「大竹ゼミ昭和村班」は、中村健太（代表：経営3年）、駒宮新（経営3年）、坂齊優季那（国際環境経済3年）、小坂舞夏（国際環境経済3年）、池田恵太（経済3年）、吉中希泉（経営2年）、田口修太郎（経営2年）、置田真治（経営2年）、清水亮介（経営2年）、渡貫花音（国際環境経済2年）、久野優乃（国際環境経済2年）、石黒智也（国際環境経済2年）の計12名からなるチームだ。

2023年、本学がある草加市の「ふささら祭り」において、草加市と姉妹都市となっている福島県の昭和村の方とお話しする機会があり、昭和村でも大学生事業を開催して交流を深めたいとの合意に達したことをきっかけに2024年度から昭和村松山地区での活動が開始した。2年目を迎える今年度は、1年目に提案した集落活性化策の「オリジナルマップ作成」を軸に活動した。

2、福島県昭和村松山地区の位置と概要

松山地区は昭和村の北端に位置、会津若松市の中心地から国道401号博士トンネルを経由し約1時間の距離にある。標高は約400～700mの高冷地にあり、山菜やキノコなどの豊かな恵みがある。日本海型気候で、盛夏は短く11月中旬には初雪、12月からは本格的な積雪時期となり、最大積雪深は150～250cmで3月頃まで続く。





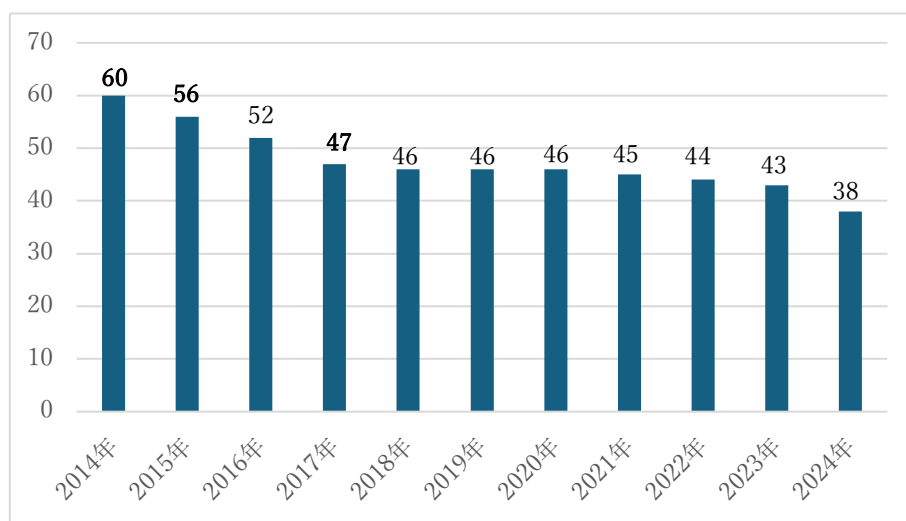
資料 2, 3 松山地区の標高図とその指標

松山地区は標高 400～700m の高冷地にある。周囲は急峻な岩山で囲まれ、山菜やキノコなどの豊かな恵みがある。集落の中央を野尻川が南北に横断し、その河岸段丘に居住地と農地が開け、農地は水田が約 13ha、畑が約 15ha あり、水田は有限会社グリーンファームと 3 戸の農家で作付けされ、畑はカスミソウを中心にソバ、アスパラガス、トマトなどが 1 集落営農組織と 7 戸の農家で作付けされ販売されている。野生動物も生息しておりヤマジノホトトギスやテン、ツキノワグマなどが生息。

3、 松山地区の現状

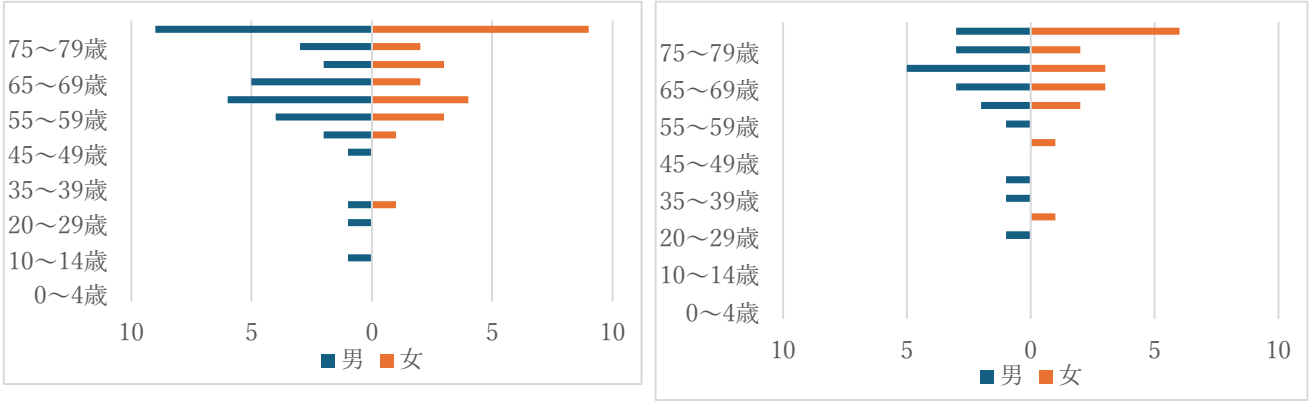
3.1 松山地区の人口

＜資料 4 松山地区の人口推移＞（前年度調査から引用）



資料4を見ると2014年から2024年の10年にかけて総人口は60人から38人に落ち込んでいる（36.67%減少）。

<資料5 2014年（左）と2024年（右）の年齢別人口割合>



資料5からはそれぞれの年代の人がそのまま持ち上がり、75～79歳の人が亡くなりつつあることで人口も減少していることがわかる。

3.2 松山地区の資源

今年度の調査では、前年度の調査で学んだ「からむし織」や「カスミソウ」、「美しい自然環境」などの有形の資源に加え、「地域の団結力の強さ」と「人の温かさ」という無形の資源をより強く感じる事ができた。松山地区の「温かい人々」を形作った理由として、昔から行われてきた住民による共同作業・活動が大きく関わっていると考えられる。

<資料5 松山地区の住民による共同作業・活動>（前年度 調査内容から引用）

集会・会合	地区定例総会、地区役員会、集落戦略運営委員会など
農作業の共同作業	草刈り、ソバ種まき、電気柵敷設・撤去など
祭り・イベント	住吉神社例大祭、山神講、観音講、歳ノ神、新そば祭り
回覧板など行政連絡	回覧板、戸走り制度（月2回）
火防督励	火の番（3～5月の節句まで。）

資料5に記載されているような住民による共同作業・活動を通して、松山地区の

方々は、信頼関係を築き、助け合いながら生活をしてきた。このような背景が、現在の松山地区の住民の団結力と温かさを生んだと言える。

4、 松山地区の課題

4.1 高齢化及び人口減少

資料４で示した通り、松山地区では、極端な高齢化と人口減少が急速に進んでいる。前年度の調査でも明らかになっていたが、10年後には高齢化率が79.2%と高い水準となることが予測されており、集落住民の極端な高齢化と人口減少は生産人口の減少と農業従事者の減少を著しく進め、住民同士の連帯意識や意思疎通の希薄化、就農意欲の減退を招いている。また地区の資源・財産の維持も人手不足と高齢化による体力の限界により難しくなりつつある。

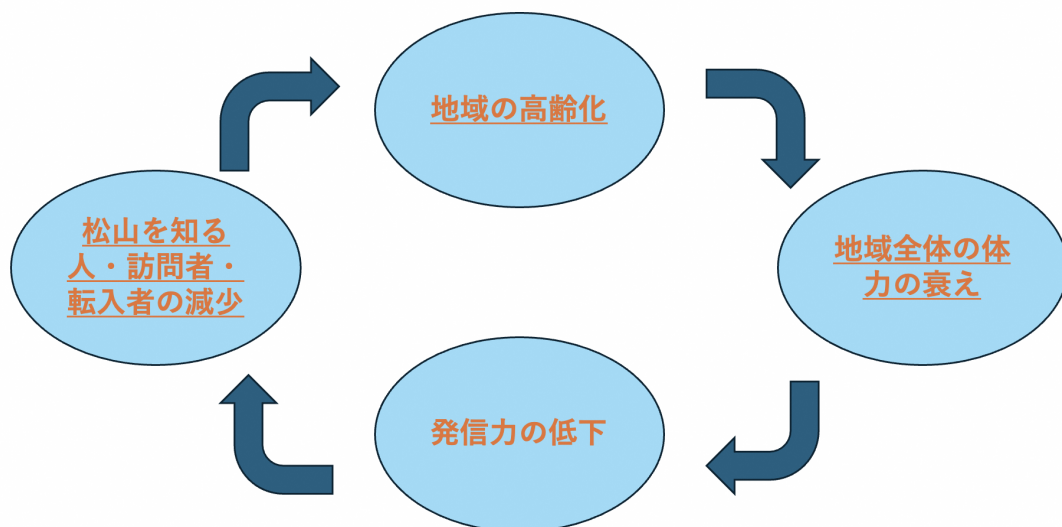
4.2 高齢化による諸課題

前述の通り、現在の松山地区は、高齢化と人口減少が大きな課題として挙げられる。そして、このことは、以下のような新たな課題を引き起こしていると考える。

- ① 地域全体の担い手不足（基幹産業に限らない）
- ② 松山地区の資源である「人の団結力」の希薄化
- ③ 高齢化による地域全体の体力の衰え など

これらの新たな課題は、地域の活性力の低下に繋がり、新たな担い手や人口の創出にも影響を与えてしまうと考える。

＜資料 6 松山地区の課題構造＞



このような松山地区の課題は、資料6の示すように、「地域の高齢化」から「地域全体の体力の衰え」、「発信力の低下」、「松山を知る人・訪問者・転入者の減少」、そして、そのことが再び地域の高齢化へとつながってしまうという構造的な負の連鎖が生じているというように考える。このことから、この構造をどこかで断ち切らない限り、地域の衰退を止めることができないと考える。

5、 今年度の取り組み

5.1 第一回現地調査

第一回現地調査は、8月8・9・10・11日に資料7の行程表により実施した。

<資料7 第一回現地調査行程表>

時程	行程
8月9日（金）	
9:04～12:30	東武東上線・会津線・野岩鉄道 特急リバティ会津113号（会津田島行） 春日部発～会津田島着
12:30～14:00	田島町ヨークベニマルにて買い出し、移動
15:15～16:00	新メンバー地域散策
16:00～18:00	地区住民との交流会
18:30～20:00	入浴
20:00～22:00	花火・星空観察
22:00～23:00	後片付け、就寝準備
23:00	就寝
8月9日（土）	
7:00	起床（希望者は、6時ごろから野菜の収穫体験）
7:00～8:00	朝食
8:00～11:00	農業体験（カスミソウ剪定）
11:00～12:00	昼食
12:00～16:00	郷土料理体験
16:00～18:00	交流会
18:00～19:30	入浴
19:30～22:00	次年度以降事業についての話し合い
22:30～23:00	就寝準備
23:00	就寝
8月10日（土）	

7:00	起床（希望者は、6 時ごろから野菜の収穫体験）
7:00～8:00	朝食
8:00～11:00	聞き取り調査①
11:00～12:00	昼食
12:00～17:00	聞き取り調査②
17:00～18:30	入浴
18:30～21:00	Mwork's との情報交換会
21:00～22:00	学生間での話し合い
22:00～23:00	就寝準備
23:00	就寝
8 月 11 日（土）	
7:00	起床（希望者は、6 時ごろから野菜の収穫体験）
7:00～8:00	朝食
8:00～11:00	調査報告会
11:00～12:00	昼食
12:00～14:00	掃除・帰りの支度
14:00～15:30	移動、15:30 会津田島駅到着
17:48～20:28	東武東上線・会津線・野岩鉄道 特急リバティ会津 154 号（浅草行）
20:30	春日部駅にて解散

また、参加メンバーは次の通りである。

<u>メンバー</u>	<u>氏名（ふりがな）</u>
	中村健太（なかむらけんた）
	駒宮新（こまみやあらた）
	池田恵太（いけだけいた）
	坂齊優季那（さかさいゆきな）
	小坂舞夏（こさかまいか）
	田口修太郎（たぐちしゅうたろう）
	置田真治（おきたしんじ）
	清水亮介（しみずりょうすけ）
	渡貫花音（わたぬきかのん）
	石黒智也（いしぐろともや）

<1 日目>

春日部駅から、約 3 時間かけ埼玉県春日部駅から福島県の会津田島駅に移動、到着後、ス

ーパークベニマルにて4日間分の食料の買い出しを行い、松山公民館に移動した。

松山公民館に到着した後は、去年からいるメンバーがガイドのようになり、新メンバーを連れて地域散策を行った。地域散策の際には、新メンバーが松山の緑豊かな自然を眺め、都会では感じることはできない澄んだ空気を堪能していた。

その後は、せせらぎ荘にて入浴を済まし、公民館に戻った後は、松山の方々と花火をして楽しんだ。松山の方々の温かさを感じる1日目であった。

<資料7 現地調査1日目の交流会の様子>



<2日目>

2日目は、松山の伝統的な産業や文化を体験する活動を中心に行った。

午前中は、松山の基幹産業である「カスミソウ」の剪定体験をさせていただいた。松山のカスミソウ農家である高野さんが講師となり、体験活動の前にお手本を見せた上で、活動が始まった。高野さんが慣れた手つきで素早く剪定を行う様子から、簡単な作業のように感じてしまったが、実際にやってみるととても難しく生徒全員が苦戦をしていた。カスミソウ農家の凄さを思い知った体験活動であった。

午後には、松山の郷土料理体験会を行った。松山のお母さま方にご協力いただき、「焼きシソおにぎり」「トマトのスープ」「ユウガオの炒め物」「小芋の味噌炒め」「なすのチーズ焼き」「味噌のシソ巻き」「きゅうりの酢の物」「スイカ」を調理した。

<3日目>

3日目は、オリジナルマップ作成のためのインタビューを行った。16件の家に訪問して、松山にどんな人が住んでいるのかをインタビューを通して調査した。主な調査内容は「職業」「出身地」「年齢」というプロフィールに関することや「昭和村の好きなところ」「特技」「特技となることを始めたきっかけ」「昭和村の今後について」などである。この慰安田ビュー活動では、オリジナルマップ作成のために必要な情報を知ること以外にも、昔の松山の様子やみんなが知らない松山のすごいところなどの多くのことを知ることができた。

<4 日目>

4 日目は、午前中に調査報告会を行い、午後は帰宅のための移動であった。

調査報告会では、3 日目のインタビューの情報共有を行い、オリジナルマップ作成のため
の大まかな計画を立てた。今後の活動がより良いものになるために重要な時間であった。

お別れの際には、昭和村の特産品をいただいた。最初から最後まで松山の方々の温かさを感じることができ幸せであった。

5.2 ふささら祭りの参加

11 月 1 日に草加まつばら綾瀬川公園。草加松原遊歩道、松原団地西口公園で行われた
「ふささら祭り」に草加市の姉妹都市として昭和村が出店し、と坂齊優季那（3 年）と小
坂舞夏（3 年）が客引きや会計などのお手伝いをさせていただいた。

昭和村の基幹産業であるカスミソウだけでなく、山菜なども販売した。特にカスミソウ
は好評で、販売開始して 3 時間ほどで完売した。購入していただいた地域の方の中には、
昭和村と関わりがあった方や昭和村に興味をもって質問してくださる方などがいらっしや
り、大変有意義な時間であったとともに昭和村の魅力を少しでも伝えられたかと思う。

また、ふささら祭りの舞台裏では、草加市役所と松山住民、獨協大学大竹ゼミ昭和村班で
意見交換会を行った。3 者での意見交換会は、様々な視点で話し合いが行うことができ、と
ても貴重な機会になった。昭和村との姉妹都市である草加市と松山、獨協大学の関係を築く
ことができ、今後の活動をする上でも大変貴重な機会になった。

5.3 第二回現地調査

第二回現地調査は、1 月 30 日から 2 月 1 日の 3 日間で行われた。資料 12 の行程表の通
り実施した。

<資料 12 第二回現地調査行程表>

時程	行程
1 月 30 日（金）	
10:04～12:30	東武東上線・会津線・野岩鉄道 特急リバティ会津 113 号（会津田島行） 春日部発～会津田島着
12:30～14:00	田島町ヨークベニマルにて買い出し、移動
15:00～17:00	調査報告会
17:00～18:30	入浴

18:30～22:00	Mwork's 意見交換会
22:00～23:00	後片付け、就寝準備
23:00	就寝
1 月 31 日（土）	
7:00	起床
7:00～8:00	朝食
8:00～11:00	除雪体験
11:00～13:00	昼食
13:00～19:30	郷土料理体験
19:30～21:00	入浴
21:00～22:00	学生ミーティング
22:00～23:00	就寝準備
23:00	就寝
2 月 1 日（土）	
7:00	起床
7:00～8:00	朝食
8:00～11:00	来年度以降の活動についての話し合い
11:00～12:00	昼食
12:00～14:00	掃除・帰りの支度
14:00～15:30	移動、15:30 会津田島駅到着
17:48～20:28	東武東上線・会津線・野岩鉄道 特急リバティ会津 154 号（浅草行）
20:30	春日部駅にて解散

また、参加メンバーは次の通りである。

<u>メンバー</u>	<u>氏名</u> （ふりがな）
	中村健太（なかむらけんた）
	駒宮新（こまみやあらた）
	池田恵太（いけだけいた）
	坂齊優季那（さかさいゆきな）
	小坂舞夏（こさかまいか）
	田口修太郎（たぐちしゅうたろう）
	清水亮介（しみずりょうすけ）
	吉中希泉（よしなかのぞみ）
	石黒智也（いしぐろともや）

<1日目>

春日部駅から、約3時間かけ埼玉県春日部駅から福島県の会津田島駅に移動、到着後、スーパーヨークベニマルにて3日間分の食料の買い出しを行い、松山公民館に移動した。

到着後は、松山公民館に松山住民の方々を招待し、活動報告会を行った。主に、オリジナルマップの提案（詳細は5.4 オリジナルマップの作成に記載）を行い、修正点などがないか確認してもらったりした。松山の方々は、私たちが作成したオリジナルマップを見ながら、楽しそうに話している様子を見て、我々も大きなやりがいを感じた。

夜には、Mwork'sの方々と意見交換会を行い、松山の今後について話し合いを行うことができた。

<2日目>

2日目は、午前中に雪かき体験、午後には郷土料理体験会を実施した。

午前中の雪かき体験は、埼玉県で積もる雪とは比べ物にならないくらいの積雪を体感しながら行った。特に、冬の昭和村が初めてであるメンバーは、とても驚いていた。外は寒いものに関わらず、全身は汗をかき、体から湯気が出るほどみんな作業に夢中になっていた。しかし、降雪が激しくなってきたため途中で中止になった。

午後には、松山の郷土料理体験会を行った。松山のお母さま方にご協力いただき、餅をはじめとする冬の郷土料理を調理した。この地区では、古くから餅は、年に一度、正月に村のみんなでついて食べるのが伝統であり、その文化が残っているという松山の歴史についてのお話を聞くこともできた。

<3日目>

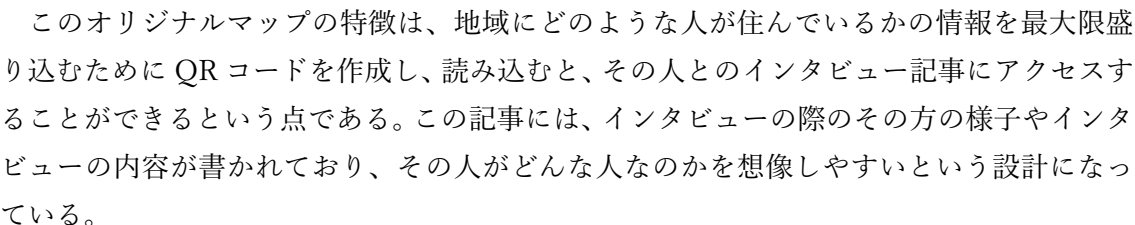
最終日は、午前中に佐々木さんと来年度以降の活動について話し合い、午後はほぼ移動となった。話し合いでは、現在の松山の現状について再度、情報共有を行い、その上で松山の意向と我々の考えを照らし合わせ、どのようなことを行うのか（詳細は6、これからの活動に記載）について、具体的な目標を設定して大まかな計画を立てた。

お別れの際には、昭和村の特産品をいただいた。今年1年間の活動を通して、松山の方々の温かさに触れ、活動以外にも多くの部分で学びの深いものとなった。

5.4 オリジナルマップの作成

オリジナルマップの作成は、前年度の調査で学んだ「地域の団結力の強さ」と「人の温かさ」という無形の資源をわかりやすく伝えるということを目標に今年度の当初から取り組み始めた。第一回現地調査でのインタビューで得ることのできた情報をもとに、メンバーが

＜資料 オリジナルマップの全体図＞



<資料 記事の全体>



6、 これからの活動

6.1 SNS 活動

関係人口を増やすことを目的に松山の魅力について SNS を通じて発信していく。
また、SNS フォロワーを来年度以内に 500 人増やすことを目標に活動していく。

6.2 オリジナルマップの活用

今年度、作成したオリジナルマップを活用して、関係人口の増加を図る。活用に関しては、「ツアー」や「物産展の際の地域説明」などで検討中。

6.3 ツアーの開催

松山の住民と共同で「農山村ツアー」などの体験プログラムを作成し、実施する。

7、 終わりに

2 年目を迎える本事業は、昭和村松山地区のことをより深く知り、実証活動を通して絆を深めることができたものとなった。松山地区の方々は、毎回温かく我々のことを受け入れてくださり、多くの思い出を我々にくれる。そのような方々がいる松山地区をもっといろいろな人に知ってほしいと強く思った。また、交流会は、我々の「ただいま」に松山の方々が「おかえり」と言うことが恒例となっていてとても温かく楽しい空間であった。誠に勝手ながら、我々にとって、松山は第二の故郷であると感じている。

最後に、本調査をするにあたり松山地区区長の佐々木様、松山地区の住民の皆様、福島県地域振興課の皆様など、多くの方々にご協力いただいた。お世話になった方々に厚く御礼申し上げたい。